

# うきたむ考古通信

2020年8月号

■発行者 うきたむ考古の会  
事務局 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 内  
〒992-0302 山形県東置賜郡高畠町安久津2117  
電話0238-52-2585 Fax 0238-52-4665

## 館事業報告

### 👤 館長講座「小山崎遺跡を知ろう」終了

7月5日、19日、26日の3回にわたって館長講座「小山崎遺跡を知ろう」を開催しました。この3月10日に国指定となった小山崎遺跡について、5日と19日に本館研修室で座学を2回開催し、26日には町のマイクロバスで現地見学を行いました。

新型コロナ感染拡大防止のため①参加申し込みは事前予約制とする。②参加人数を研修室の机の数である20人に制限する。③参加者はマスク着用で入館時に手指の消毒をし、検温させていただくこととし、当館職員はマスク、フェイスシールドを着用して、検温、受付にあたることとしました。また、研修室は窓と出入口のドアを開けて密閉しないようにしたうえで、奇数列と偶数列で座る場所を変え、密接にならないように配慮しました。参加者は5日が18名、19日が18名、26日が13名でした。

5日は前半が「小山崎遺跡の調査経過」後半が「小山崎遺跡の早期から前期の遺構と遺物」、19日は前・後半とも「小山崎遺跡の中期から後・晩期の遺構と遺物」として調査の成果と課題をお話ししました。

26日の現地見学は8時に資料館を出発し、寒河江SAで村山地域の参加者と合流し、遺跡に向かいました。庄内平野に入ったら薄曇りで雨の心配は全くない状況でした。旧朝日村からは中腹に雲がかかるものの鳥海山が望めました。酒田みなとICで高速道路を降り、国道7号線へ。道の駅フラットでトイレ休憩後、吹浦遺跡の上を經由して、箕輪サケ孵化場の駐車場へ。ここで、資料の発掘区的位置を確認した後、まずは、牛渡川で山から噴き出す湧水の様子を確認しました。残念ながら梅花藻の花の最盛期は過ぎていましたが、名残がありました。只者ではないと、いつも言われる参加者の多くは、遊歩道をどんどん遡り、見えなくなってしまいました。牛渡川の滞在時間を大幅に上回ってしまいましたが、幽玄の美を持つ丸池さまから、柴燈林遺跡、小山崎遺跡の斜面住居のある場所、低地部に降りて西部にある水辺の遺構があった場所、後期の動植物遺体を伴う捨て場の位置、前期の貝塚の位置で調査の経過と成果について現地で説明を行いました。

孵化場には遠く遊佐町から講座を聴講してくださった元月光川土地改良区で現在遊佐町議会議員の菅原さんが合流し、38年前から4年間続いた吹浦遺跡の調査を手伝っていた、当時、遊佐町教育委員会に居られた高橋信夫さんも駆けつけてくださいました。小

山崎遺跡の説明が終わった後、県指定史跡の吹浦遺跡の説明板のあるところで調査成果の概要を説明しました。崖面で発見され、当時は洞窟と考えられていた遺構は、実はあまりにも大きなフラスコ状土坑であったこと、4年間お緊急調査で約5,000平米の調査を行ったが、遺跡の3分の1以上はまだ残っていることなどです。次は史跡鳥海山の物忌神社吹浦口ノ宮へ。石段を登って拝殿と月山神社、物忌神社の本殿を参拝しました。庄内には平安時代に砂浜や神社前で石鏃が降ったとの記事が数回見られますが、神社前の石鏃は恐らく吹浦遺跡だったのではなかったのかとの私見も述べました。物忌神社を後にして、昼食会場の遊楽里へ。参加者の希望で最も多かった「カキフライ定食」に舌鼓を打ちました。

昼食後は元西遊佐小学校を活用した遊佐町教育委員会埋蔵文化財調査室に伺いました。町教育委員会の渋谷咲智さんから遊佐町に所在する遺跡の概要と小山崎遺跡や柴燈林遺跡の出土品の説明を受けました。この調査室は県内の市町村では最も出土品の整理と展示が行き届いた施設ですが、一般の方がフリーで見学できないのは残念です。

本日の最後は北海道祝津でニシン漁で成功し、出身地の遊佐町青塚に豪邸を建設した重要文化財旧青山本邸へ。ビデオの説明を見た後、邸内の各部屋や庭、ニシン漁に関する諸資料や豪華な調度品、装飾品の展示施設を見学。15時に帰途につきました。庄内ではほとんど雨に降られることはなく、青山本邸では青空の範囲も広がっていましたが、内陸に入ると雨模様となり、高島に着いたときにも小雨でした。参加者の投稿「湧水の地に 縄文の ムラを掘る」 つとむ。

再開館後、最初の事業となりましたが、感染防止策を講じれば、講座の開催が可能であるとの認識を新たにしました。

## 各種体験講座

### ♥ 勾玉・弓矢をつくろう

5月に予定していました1回目の体験講座は中止とせざるを得なかったのですが、感染防止策を図った上で、7月から体験講座を再開しました。

7月18日に「勾玉をつくろう」と「弓矢をつくろう」を開催しました。これまでに同時開催していました「石器をつくろう」は対面方式の指導が欠かせないため「密接」を避けきれないということで、当面は開催しないこととしました。新型コロナ感染防止の観点から一つの時間帯3組に限定して、完全予約で参加者を募りました。「勾玉をつくろう」は研修室に同時に3組とし、参加者は体温測定後、手指の消毒とマスク着用を確認してから入室してもらいました。研修室は、窓を開け、密閉状態とならないようにしました。「弓矢をつくろう」も同時に3組とし、各グループに相応の距離をおきました。

参加者は子ども17名、大人16名と、制限のない時と比較して3分の1以下となりましたが、コロナ渦の新しい館の運営方式の試みとなりました。

### ♥ 「赤ちゃん手形をつくろう」を8月に開催しました

●恒例となったゴールデンウィークの「赤ちゃんの手形をつくろう」は、新型コロナ感染拡大防止のため休館措置がとられたため、例年どおりの開催はできませんでした。

とはいえ、当館で最も入館者が集まるイベントなので、何とか開催する方向で検討を重ねました。その結果、感染防止策を徹底した上で8月8日から12日の5日間の開催に

漕ぎ着けることができました。

感染防止策として3密とまらない状況下で手形採取するため、15分に子ども2人とする完全予約制とし、付添は子ども一人に2人までとしました。参加者は県内在住者または、県内で2週間以上在住していることを条件としました。参加者は手指消毒後検温し、37.5度以上の方は入室をお断りすることとし、3歳以上はマスクを着用していただくこととしました。例年アルバイトやボランティアの応援を得ていましたが、今回は館職員と社会教育課の職員のみで対応し、職員は毎朝検温してその結果を、参加者が見えるところに貼り出すこととしました。参加者と手形採取者の間は透明シートで遮蔽し、採取者はマスク、フェイスシールド、手袋を着用し、手形採取後は参加者の机、イス、手の触れたものをその都度アルコールで消毒し、手袋は廃棄することとしました。

以上のような感染対策をとったため、1日の参加者は40人に限定せざるを得ませんでした。

この結果、参加総人数は1,049名、採取手形・足形は311個となり、参加人数はこれまでの4分の1以下、手形採取個数も3分の1以下となりました。入館者、手形採取数を大幅に減らしたとはいえ、コロナ渦の中でも開催できたことは、今後の館運営の指針になるものといえそうです。

今年是对应職員が少なかったため、例年実施していた手形をとる様子や手形の写真を撮影することを取りやめることとしていましたが、参加人数が少ないため、十分にその余裕があることが判明したので、今年も、参加者ほぼ全員、採取した手形・足形の全点を撮影することができ、毎日ホームページに掲載することができました。また、会場にも前日までの写真をプリントして貼り付けました。参加者の方で画像データをご希望の方にはメールで送信するサービスを行っており、今年も多くの方々に画像データを送らせていただいています。

現在、手形は当館で自然乾燥した後、「創造の館」に搬入し陶芸同好会の後藤代表の手よっての電気窯で丁寧に焼成されることになっています。参加者への手渡しは11月1日からになります。

## 展覧会のご案内

### 👁 第28回企画展 「水木田遺跡と縄文時代

## 中期前半の山形ー」

第28回企画展は「水木田遺跡と縄文時代中期前半の山形」と題し、重要文化財指定後に国庫補助を受けて行われていた保存修理事業が終了した土器を中心に展示いたします。

水木田遺跡は山形県最上郡最上町に所在し昭和53年に県営ほ場整備事業に伴い発掘調査が行われました。縄文時代中期前半の土器や石器が多数出土し、このうち、土器土製品136点と石器石製品194点の合計330点が平成23年に重要文化財に指定されました。

指定品のうち土器22点について5ヶ年をかけて保存修理事業が行われ、令和元年度で完了いたしました。

この水木田遺跡出土品で修理の終わった土器に加え、今回の展示では縄文時代中期初頭から中期前半の県内の出土品も展示いたします。

近年、大木7a式土器は東北の中期初頭ではなく、これを溯る土器の存在が明らかになり

つつあります。最初は天童市板橋 1 遺跡や高瀬山遺跡の中期初頭の土器と水木田遺跡や鶴岡市西向遺跡、舟形町西ノ前遺跡、村山市落合遺跡、米沢市台ノ上遺跡の大木 7a 式、五領ヶ台系の土器、北陸の新保式に併行する土器を展示します。

つぎは、水木田遺跡の中核をなす大木 7b 式及び、北東北の円筒上層 b 式、北陸の新崎式、東関東の阿玉台式等の併行する土器を展示します。展示する遺跡は右の遺跡に酒田市飛島蕨山遺跡、新庄市中川原 C 遺跡、尾花沢市原の内 A 遺跡、長井市宮遺跡が加わります。土器の最後は水木田遺跡で最も新しい大木 8a 式期の土器群です。土器の大形化、立体的な装飾が目立ちます。大木 8a 式が東北南部で栄えていた頃、新潟県下では火焰土器が盛行しますが、県内で唯一形が分かる遊佐町柴燈林遺跡の馬高式土器も展示します。

この時期には土偶の出土量も増加します。水木田遺跡の重要文化財の土偶全点と中川原 C、原の内 A、落合遺跡など最上、村山地域の西ノ前形を中心とした土偶に加え、中期前半から中葉にかけて大量の土偶が出土した台ノ上遺跡の土偶の変遷過程を展示します。

また、この時期の土製品も耳栓形耳飾り、滑車形耳飾り、三脚土製品等があり、石冠や三脚石器等の石製品もあります。

台ノ上遺跡、南陽市長岡山遺跡、寒河江市谷沢遺跡で岩偶とされたものが秋田県横手市で出土品から、鼓形となる石棒の一部であることが明らかになりましたので、水木田遺跡から出土した重要文化財の石器と共に、これらの資料も展示いたします。

今回の企画展では水木田遺跡の保存修理の終わった土器に加え、山形県の縄文時代中期前半に焦点を当てて、多様な資料を展示する予定ですので、是非御覧いただきたいと思えます。

## 館主催事業の案内

# 令和 2 年度 第 22 期考古学セミナー

## 開催要項

### 1. 趣 旨

企画展に関連したテーマでセミナーを行うことにより、企画展の内容への理解や展示見学への意欲を高める。

また、重要文化財水木田遺跡出土品をはじめとする山形県内出土の縄文時代中期前半の出土資料から、当時の暮らしぶりや埋蔵文化財への理解を深める契機とする。

### 2. 主 催 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

うきたむ風土記の丘考古資料館自主事業委員会

### 3. 期 日 令和 2 年 9 月 27 日・10 月 11 日・10 月 18 日（日）

### 4. 会 場 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 研修室

### 5. テ ー マ 『水木田遺跡と縄文時代中期前半の山形』

### 6. 講義日および講師

〈第 1 回〉 9 月 27 日（日） 13 : 30 ~ 16 : 00

・「重要文化財 水木田遺跡出土品について」

阿部 明彦 氏（山形考古学会副会長）

・「庄内地域の縄文時代中期前半について」

須賀井 新人 氏（(公財)山形県埋蔵文化財センター）

〈第 2 回〉 10 月 11 日（日） 13 : 30 ~ 16 : 00

- ・「最上地域の縄文時代中期前半について」  
水戸部 秀樹 氏 ((公財)山形県埋蔵文化財センター)
- ・「村山地域の縄文時代中期前半について」  
渋谷 孝雄 (うきたむ風土記の丘考古資料館館長)

〈第3回〉10月18日(日)13:30~16:00

- ・「東置賜地域の縄文時代中期前半について」  
菊地 政信 氏 (日本考古学協会会員)
- ・「西置賜地域の縄文時代中期前半について」  
岩崎 義信 氏 (長井市教育委員会)

7. 受講料 全3回 1,500円(1回毎は600円)
8. 対象 各日 一般20名程度
9. 申し込み 原則として9月26日(土)(部分受講は各講座直前の火曜日)まで

※新型コロナウイルス感染対策のため、完全予約制。受講者は入館時に手指を消毒していただき、検温をさせていただきます、37.5度以上の方は入室をお断りさせていただきます。また、マスクを着用していただきますので、ご承知置き下さい。

## ♥秋の遺跡めぐり

10月17日(土)に春の遺跡めぐりで予定していました宮城県東松島市の遺跡と展示施設をめぐるとの予定で準備を進めています。開催要項ができ次第、お送りします。なお、今回の遺跡めぐりは、感染予防のため、参加人数定数が従来の3分の2以下となる予定ですのでご理解を賜りたいと思います。

# 東北情報館



## 企画展 『水木田遺跡と縄文時代中期前半の山形』

入館料 一般／200円 大学生／100円 高校生以下／無料

9月12日～12月6日 うきたむ風土記の丘考古資料館 TEL: 0238-52-2585



## 特別展 『米沢城—上杉氏の居城—』

入館料 一般／620円 高校生・大学生／420円 小・中学生／270円

9月19日～11月23日 米沢市上杉博物館 TEL: 0238-26-8001



## 企画展 『絵図面に見るたかはたの昔』

入館料 一般／100円 大学生／50円 高校生以下／無料

8月1日～11月29日 高畠町郷土資料館 TEL: 0238-52-4523



## 特別展 『尾花沢の経塚展』

入館料 一般／200円 大学生／100円 高校生以下／無料

8月6日～10月6日 芭蕉、清風歴史資料館 TEL: 0237-22-0104



## 創立70周年記念展覧会 『日本遺産、庄内、悠久の歴史』

入館料 一般／800円 高校生・大学生／400円 小・中学生／300円

8月1日～9月14日 致道博物館 TEL: 0235-22-1199



## 『悠遠なる平安の美仏』

入館料 一般／900円 中学生以下／無料

7月23日～10月25日 本山慈恩寺 TEL: 0237-87-3993